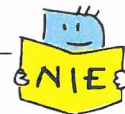




協・競・響

**Tutti**  
トゥッティ

★NIE「教育に新聞を」その2



「日常生活から変えていく」(3組 安藤 久暁)

この記事を読んで、この17の目標は一人一人の考え方を変えれば近づくことができるのではないかと思った。どれだけ貧困や飢餓などについて学んでも、学んだことを生かして行動しなければ意味がない。

例えば、ゴミを拾うだけで、14の海の豊かさを守ろう、15の陸の豊かさを守ろうに近づくことができる。僕たちが持続可能な社会や環境保全など口にするだけでは状況は何も変わらない。

この17の目標に近づくために、今の自分に何ができることはないか、そういうことを考え、実行することが大切だ。別に、世界規模で取組を行う必要など全くない。大切なのは、日頃の生活の中で、常にこの17の目標を頭に入れて行動することだと僕は思う。

「世界と共に自分から動く！」(4組 片平 楓和娃)

私は、今回の新聞記事を読んで、「持続可能な開発目標」「世界を変えるための17の目標」について考えることができた。

世界が目標としているのは、「平和」ということだと思う。修学旅行でも学んだとおり、「平和」は誰もが求めていることだと思う。「平和」の中にはそれぞれ、いろいろな環境についてや人権についてなどがある。

今回、私は「SDGs(イディーズ)」という新しい言葉を知ることができた。鹿児島県でも取組が行われているということから、私も一人一人が意識して小さなことから取り組み、世界が目標としているものを達成することがいつかできると思うので、日頃からできるリサイクルや節水などから心がけたい。

「私たちにできること」(5組 佐川 心彩)

SDGsの達成に向けて個人でできることは多くあると思います。寄付・募金、食糧支援や教育支援に貢献できます。日常生活を見直すことも大切です。環境省の発表では、4人家族一世帯で年間6万円相当の食品が家庭から捨てられているそうです。買いすぎない、保存方法を工夫するなど、日常生活でできることが多くあると思います。電気をこまめに消すなど、エネルギーを無駄にしないことも大切です。

また、SDGsの目標達成には、周りの人に広めることも大切だと思います。SNSなどで自分が日常で取り組んでいることを知ってもらうことでSDGsを理解する人が増えれば、それだけで活動が広がると思います。

「持続可能な社会をめざして」(6組 宮下 ひなた)

私はこの記事を読んで、まず、世界中の人々が持続可能な社会をめざして取組をしているのか?と思った。

食品ロスだけを無くそうとしても世界は変えられない。私たちがふだん飲んでいる水。しかし、世界には、そう簡単に水を飲むことができない人たちもいて苦しんでいる。そのために、私たちがその苦しんでいる人たちを助け、世界を変えなければならない。

また、世界を変えるための17の目標を見て、私はあるニュースを思い出した。それは、警察官が黒人男性を銃撃したニュースだ。このような差別や偏見を無くし、世界中の人たちが平和に暮らしていけるようにしたい。

私たちができることを探して取り組んでいき、17の目標を少しずつ達成できるようにしていきたいと思う。